

平成29年度 国への提言・提案 (別紙)

本県でのサミット開催にご尽力賜り、
感謝申し上げます。



平成28年6月
三重県



伊勢志摩サミット
三重県民会議

ポストサミット事業等への協力・支援について

(内閣官房)

【提言・提案事項】 制度・予算

- 1 次回、日本でサミットを開催する際に、開催地となる地方自治体の事情に応じた財政支援を柔軟に行うこと。
- 2 ポストサミット事業に対する協力・支援を行うこと。
 - (1) 平成 28 年度に実施する取組への協力・支援
 - (2) 本県をはじめ地方での国際会議等の開催やインバウンドの増加、伊勢志摩国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」とすることにに向けた協力・支援

《現状・課題等》

- 1 8年ぶりに日本で開催された主要国首脳会議（サミット）は、無事安全・安心に開催され、成功裡に終わりました。首脳会議等のさまざまな場面で多くの県産食材やお酒等を使用していただいたことで、三重ならではの「おもてなし」ができました。また、サミット開催を機に三重の魅力の世界に発信することができたことは関係省庁の格別なご配慮によるものと、深く感謝を申し上げます。

伊勢志摩サミットでは、警察費補助金（4.7億円）、地方創生関係（3.6億円）、消防防災救急関係交付金（3.5億円）、医療施設等設備整備費補助金（1億円）等の財政支援をいただきました。特に、公共事業関係では、道路整備や照明灯設置、ガードパイプへの取替等に約62億円の費用が必要となり、県の財政負担が過大となることが懸念されましたが、平成27年度補正予算では、新たな制度の構築（主要国首脳会議開催準備環境整備費補助金）や既存制度（防災・安全交付金）の活用により、27億円を超えるご支援をいただきました。こうしたご支援は安全・安心なサミットを開催する上で大きな役割を果たしました。サミットの成功には、開催地の地方自治体の努力はもとより、地方自治体の事情に応じた柔軟な財政支援が不可欠であり、次回、日本でサミットが開催される際には、今般の制度構築もふまえた財政支援が必要です。
- 2 伊勢志摩サミット、2016年ジュニア・サミット in 三重や関係閣僚会合の成果を踏まえ、これらの会議・会合の開催を一過性に終わらせることなく、「レガシー」（サミット開催により地域にもたらされる有形無形の好影響）として三重の未来に生かすため、「ポストサミット事業」を展開していきます。具体的には「人と事業を呼び込む」、「成果を発展させる」、「次世代に継承する」の3つの視点から様々な事業を展開し、地方創生につなげていきます。
 - (1) G7伊勢志摩首脳宣言や多くの関係閣僚会合における宣言で触れられている女性活躍について「あらゆる分野における女性の活躍」をテーマにした公開フォーラム、また、新潟宣言で触れられている「農業のあらゆる可能性を拓ける取組への支援」の一つとして考えられる農福連携全国サミット、G7富山環境大臣会合コミュニケで取り上げられた「持続可能な開発」等について、環境技術移転の視点から、ASEAN各国とのネットワーク等を強化し県内企業の海外展開の支援を目的に開催するASEAN環境フォーラム（仮称）を、平成28年度中に実施する予定です。各宣言で示された取組を実現し、サミット開催で高まった気運を途切れさせることなく、成功に導くためには、全国的なネットワークの構築、気運醸成、先進的な取組の情報共有が必要です。
 - (2) (1)の事業にとどまらず、特にMICEやインバウンドについて、国が「明日の日本を支える観光ビジョン」で新たに設定した、2020年に訪日外国人旅行者数4,000万人の実現に向けて、国と地方自治体が一体となって取り組む必要があります。この目標達成のためにも、本県でサミットを開催したことによる経験を生かして、今後も本県をはじめ地方での国際会議等の開催や、海外で地方のプロモーションを行うビジット・ジャパン事業の拡充、伊勢志摩国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」とすることなどインバウンドの増加に向けた協力・支援が必要です。

県担当課名 環境生活部男女共同参画・NPO課、農林水産部担い手支援課、みどり共生推進課、雇用経済部雇用経済総務課、観光局、伊勢志摩サミット推進局、
県土整備部県土整備総務課

ポストサミット事業等への協力・支援

(内閣官房)

サミット開催自治体への 柔軟な財政支援

8年ぶりに日本で行われたサミット開催の効果を最大限とするために

地方での国際会議等の開催、 インバウンドの増加に向けた協力・支援

国と一体となって、訪日外国人旅行者数
4,000万人の実現に向け取り組みます。

安全・安心なサミットの開催に向け、社会資本整備や
警備、消防などの多額の費用が必要となりましたが、
あらゆる財源措置のご検討、ご支援をいただきました。

○柔軟な財政支援

安全で安心なサミットの開催のために！

本県が計上したサミット関連予算

約94.1億円 (H26～H28年度)

- ・国庫支出金40億円
 - ・県費14.1億円
 - ・県債35.1億円
- ほか

国からの財政支援

約40億円 (H26～H28年度)

- ・公共事業関係27.1億円
- ・警察費補助金 4.7億円
- ・地方創生関係 3.6億円
- ・消防防災救急関係交付金 3.5億円
- ・医療施設等設備整備費補助金 1億円

照明灯の設置

剪定、舗装の修繕

安全・安心な
サミット開催につながりました！

今後もサミット開催自治体の事情に
合わせた財政支援を！

三重県が行うポストサミット事業への協力・支援

伊勢志摩サミット、ジュニア・サミットや関係関係会合での成果も踏まえ、
「人と事業を呼び込む」、「成果を発展させる」、「次世代に継承する」の3つ
の視点で事業を展開し、地方創生につなげます。

○「女性活躍」に関する 公開フォーラム

三重県から、女性活躍
推進の一歩ムーブメントを創出！



H27.8開催 女性が輝く社会に向けた
国際シンポジウムwaw!2015

○「農福連携」の全国サミット

地域・民間の連携による全国に
先駆けた農福連携モデルを
三重県から発信！



ナバナ栽培研修を受講している
障がい者の皆さん

○「環境」をテーマにした会議

四日市公害等で培われた
環境技術等を世界に発信！

ASEAN環境フォーラムin三重(H28.2.12)



四日市公害と環境未来館の視察

課題

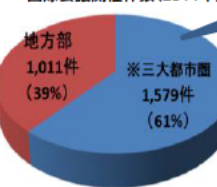
- ・全国的な
ネットワークの構築
- ・気運醸成
- ・先進的な取組の
情報共有

地方創生に向けた地域の取組に協力・支援を！

OMICEの誘致

世界で戦える日本のMICEへと成長させるために

国際会議開催件数(2014年)



サミットの経験を生かして

開催が三大都市圏に集中



ジュニアサミット(H28.4)

課題

- ・人的資源
- ・地域特性を演出できる会場(ユニークな)の情報発信

三重県をはじめ、地方での国際会議等の開催に協力・支援を！

○インバウンドの推進

- ・海女、忍者、F1など三重のクールジャパン資源を海外に発信！
- ・伊勢志摩国立公園の自然に育まれた資源の活用！



海女のコスプレを楽しむ外国人観光客



外国人観光客に人気の忍者ショー



指定70周年を迎える
伊勢志摩国立公園

課題

- ・地域の魅力を発信する海外プロモーション
→ビジット・ジャパン事業の拡充
- ・世界の旅行者が憧れる destinations へ
→伊勢志摩国立公園をナショナルパークとしてブランド化

インバウンドの増加に向けた協力・支援を！

提言・ 提案

- 1 次回、日本でサミットを開催する際に、開催自治体の事情に合わせた財政支援を柔軟に行うこと。
- 2 ポストサミット事業に対する協力・支援を行うこと。
 - (1)平成28年度に実施する取組への協力・支援
 - (2)三重県をはじめ地方での国際会議等の開催やインバウンドの増加、伊勢志摩国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」とすることにに向けた協力・支援

【雇用経済部】